

時間からこぼれて冬のしじみ蝶

藤田湘子

この句は、平成十三年一月号の『鷹』において、湘子主宰の毎号十二句発表の中の一句。表題は「時間から」となっていたから、自信句でもあつたのだろう。

しかし、「時間からこぼれて」とは、これまで弟子たちには禁句としてきたような表現。果たしてこんな言葉を使つて良いのかと当時の私はかなり疑問に思つたのを覚えていて。まして一月号の二句目に掲載されたのだから、これからの鷹の方向性にも影響しようと思念した。

平年ならシジミチョウが見られるのは、三月から十一月頃。冬は卵か成虫で越冬する。それでも凍蝶とならずかすかな動きで存在を示した「しじみ蝶」に目を止めた湘子。視るべき未来の、何かを感じたに違いない。

2000年（H12作）第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩